

# 令和 7 年度 仙崎漁港ほか藻場保全状況調査 概要版

表 5.1.4 各種係数の設定(アラメ場(クロメ))

項目	濃生	密生	疎生	点生
単位面積当たりの湿重量(tWW/ha)	62.251	30.842	8.628	0.971
含水率（クロメ）	0.832			
P/B 比	1.0～2.4(1.7) ※ <sup>1</sup>			
炭素含有率	0.325※ <sup>1</sup>			
残存係数①	0.0472※ <sup>2</sup>			
残存係数②	0.0528※ <sup>3</sup>			
生態系全体への変換係数	1.50※ <sup>4</sup>			

表 5.1.5 各種係数の設定(ホンダワラ類)

項目	濃生	密生	疎生	点生
単位面積当たりの湿重量(tWW/ha)	49.241	35.010	17.883	5.687
含水率（ホンダワラ科平均）	0.820			
P/B 比	1.2～1.4(1.3) ※ <sup>1</sup>			
炭素含有率	0.32※ <sup>1</sup>			
残存係数①	0.0472※ <sup>2</sup>			
残存係数②	0.0499※ <sup>3</sup>			
生態系全体への変換係数	1.50※ <sup>4</sup>			

表 5.1.6 各種係数の設定(ワカメ類)

項目	濃生	密生	疎生	点生
単位面積当たりの湿重量(tWW/ha)	39.276	26.321	10.841	1.910
含水率（ワカメ）	0.877			
P/B 比	1.0～1.9(1.5) ※ <sup>1</sup>			
炭素含有率	0.327※ <sup>5</sup>			
残存係数①	0.0472※ <sup>2</sup>			
残存係数②	0.0279※ <sup>3</sup>			
生態系全体への変換係数	1.50※ <sup>4</sup>			

表 5.1.7 各種係数の設定(小型褐藻類)

項目	係数
単位面積当たりの湿重量(tWW/ha)	0.333
含水率（小型褐藻類）	0.770
P/B 比	1※ <sup>6</sup>
炭素含有率	1※ <sup>6</sup>
残存係数①	1.662※ <sup>7</sup>
残存係数②	0.0006※ <sup>7</sup>
生態系全体への変換係数	1※ <sup>6</sup>

※1：第3版磯焼け対策ガイドライン，水産庁（2021）

※2：Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Krause-Jensen and Duarte（2016）：Nature Geoscience, 9, 737-742 （JBE 手引き Ver.2.4 P41）.

※3：港湾空港技術研究所 未発表資料（JBE 手引き Ver2.4 P41）

※4：桑江ら，（2019），浅海生態系における年間二酸化炭素吸収量の全国推計，土木学会論文集 B2（海岸工学），Vol.75, No.1,10-20

※5：三陸沿岸の藻場における炭素吸収量把握の試み、村岡、水産研究・教育機構

※6：「海草・海藻藻場の CO<sub>2</sub>貯留量算定ガイドブック」の日本海南部の小型褐藻の吸収ポテンシャル係数を利用のため、仮数値である。

※7：「海草・海藻藻場の CO<sub>2</sub>貯留量算定ガイドブック」の日本海南部の小型褐藻の吸収ポテンシャル係数 0.063 を利用するため、炭素量を二酸化炭素量へ換算する係数 44/12 を割り戻して、1.662 を残存係数①に入力。残存係数②は、申請上 0 が認められないため、証す第 3 位の 0.002 を残存係数②に入力した。

表 5.1.8 各種係数の設定(小型褐藻類) (CO<sub>2</sub>貯留量算定ガイドブック基準)

項目	係数
吸収ポテンシャル	0.063
乾重量(gDW/m <sup>2</sup> )	7.42
生態系全体への変換係数	1
吸収係数	0.468

注）海草・海藻藻場の CO<sub>2</sub>貯留量算定ガイドブック（令和 5 年 11 月，国立研究開発法人水産研究・教育機構）を参考に、本調査の海藻生育調査にて採取した 12 検体中の小型褐藻類を対象に乾重量を算出した。生態系全体への変換係数については、基準の値として 1 を採用した。